

令和7年度岩手県ニホンザル生息状況調査業務委託調査報告書 - 概要版 -

本調査は、五葉山周辺2市1町（大船渡市、釜石市及び住田町）並びに、宮古市、陸前高田市、大槌町及び山田町において、生息するニホンザルについて生息の有無、個体群数及び個体数を把握することを目的とする。五葉山山系を含む県内の未標識群の分布を明らかにし、標識群の個体数、加害状況を把握・再評価した。

五葉山山系の生息状況調査

①GPS首輪を用いた行動追跡調査（標識群）

高森群の個体を捕獲し、GPS首輪を装着した。GPS首輪既装着の六郎群、仙人群、中沢群と併せて標識群4群の位置情報を取得し、行動圏等を明らかにした（図1）。



③群れの個体数調査と群れ評価（標識群）

標識群の個体数や群れ構成、加害レベルを判定した。中沢群と高森群は過去の推定個体数を上回った。国のガイドラインより加害レベル判定をすると、六郎群、仙人群、中沢群は加害レベルが4と高かった。

群れ名	出没頻度	出没規模	人への反応	被害状況	生活被害	合計	加害レベル	個体数
「六郎群」	4	4	3	2	2	15	4	34
「仙人群」	4	4	3	2	2	15	4	40
「中沢群」	3	4	2	3	2	14	4	78
「高森群」	2	2	2	1	1	8	3	56



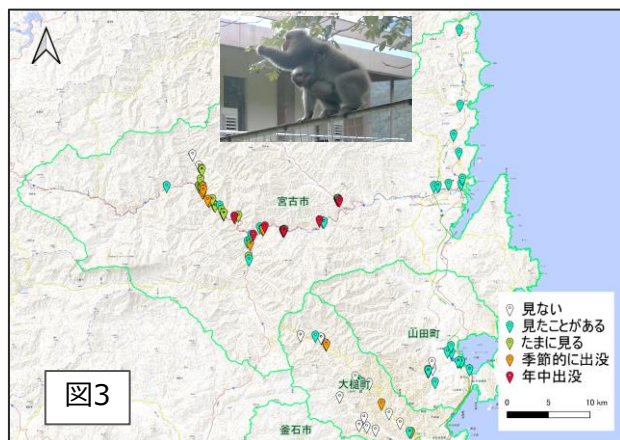
②地域個体群数調査（標識群＋未標識群）

五葉山周辺において、未標識群の存在を調査した。ヒアリング調査、五葉山登山者を対象としたアンケート調査、ボイストラップ調査に加え、当センターの独自調査を行った。結果、五葉山山域では標識された4群の他に少なくとも4群が生息していることが明らかになった（図2）。



五葉山山系以外の生息状況調査

五葉山山系以外では、大槌町において群れの存在が示唆され、宮古市では群れが撮影された。大槌町の群れについては以前から情報が寄せられているが、頭数が少ないこともあり、現時点で確認には至っていない。宮古市の群れについては、本業務が初の報告事例となる（図3）。



本調査において、五葉山山系個体群の標識群の個体数をフルカウントした結果、4群208頭となり、前回調査時点（2022）の4群115頭＋αから増加している。さらに、新たな群れが複数確認されたことで個体数はこれよりも増加することが確実である。

この総数を基礎として今後の計画策定を進めることになるが、ニホンザルの保護管理の目的は、地域個体群の長期的安定を図りつつ、農作物被害および生活環境被害を持続的に軽減することである。そのためには、被害防除対策、生息環境管理、個体数管理を地域特性に応じて組み合わせ、総合的に対策を講じることが重要である。